

令和元年

年末の交通安全県民運動 実施要綱

令和元年10月24日
福井県交通対策協議会

第1 目 的

本運動は、降雪や路面凍結、交通混雑などの道路交通環境の悪化や飲酒する機会の増加等に伴い、交通事故の増加が懸念される年末を迎えるにあたり、県民一人ひとりが交通ルールへの遵守や正しい交通マナーを励行することにより、交通事故を防止することを目的とする。

第2 期 間

令和元年12月11日(水)から12月20日(金)までの10日間

第3 主 唱

福井県交通対策協議会

第4 スローガン(北陸三県統一)

ゆっくり走ろう 雪のふる里 北陸路

第5 実施期間・団体

福井県、福井県警察、福井県教育委員会、市町および福井県交通対策協議会の構成機関・団体

第6 統一行動日

令和元年12月11日(水)

実施機関・団体が、交差点等の街頭において一斉に交通安全街頭啓発活動および交通安全指導を行う日とする。

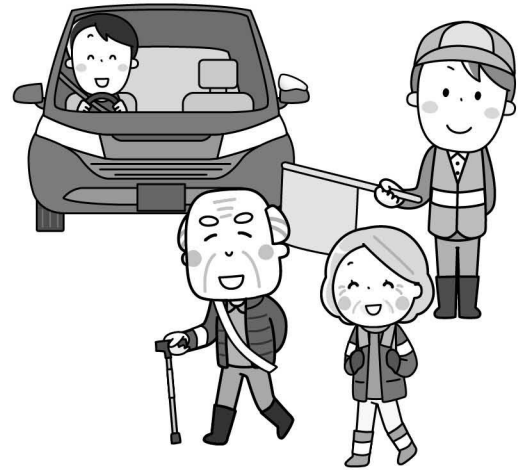
第7 推 進 方 法

1. 実施機関・団体は、本運動の趣旨等について組織のすみずみまで浸透を図るとともに、具体的な実施計画を策定し、早期に推進体制を確立するものとする。
2. 実施機関・団体は、本運動が真に県民総ぐるみの運動として成果があがるよう、創意工夫を凝らした交通安全教育や街頭指導等の交通安全活動を実施するほか、各種広報媒体を積極的に活用した広報啓発活動により、県民の交通安全意識の高揚に努めるものとする。

なお、交通事故の悲惨さ等に関する広報を行う際には、交通事故被害者や被害者家族の心情に配慮するものとする。

第8 運動の重点と取組み

1. 高齢者の交通事故防止(北陸三県統一)
2. 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止
3. 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
4. 雪寒期の交通事故防止
5. 飲酒運転の根絶
6. 交通安全3S+2アクションの励行



高齢者の交通事故防止

高齢者には交通安全意識の高揚を、一般の運転者には高齢者に対する保護意識の醸成を図り、高齢者が関係する交通事故を防止する。

高齢者

- 参加・体験・実践型の交通安全教室に積極的に参加し、交通ルール・マナーの理解を深めるとともに、自身の運動能力等を正しく理解して、歩行中や自転車乗用中の交通事故防止を図る。
- 高齢運転者は、積極的に交通安全講習を受講するほか、加齢に伴う身体機能や運転技能の低下を認識するため運転適性検査を受けるなど、能力に応じた運転を心がける。
- 認知症等により安全な運転が困難となった場合は、運転免許の自主返納について検討する。
- 自動ブレーキおよびペダル踏み間違い時加速抑制装置等が搭載されたセーフティ・サポートカーS（略称：サポカーS）の利用を検討する。
- 運転免許の自主返納に踏み切れない高齢運転者に、自らが運転時間帯や場所等を限定して、安全運転を続ける取組みを促進する。



運転者

- 高齢運転者標識を表示した車両を見かけたときは、減速、徐行するなど高齢者に配慮した運転を心がける。
- 歩行中や自転車乗用中の高齢者を見かけたときは十分な減速を行うほか、側方を通過する際には十分な間隔を保持するなど「子どもと高齢者を見かけたらスローダウン」県民運動を推進する。

家庭・地域・職場

- 高齢者が外出する際には、交通ルールの遵守や反射材用品の利用促進等について声かけを行うなど、高齢者の交通事故防止啓発に努める。
- 交差点等で高齢者を見かけたときは安全誘導を行うなど、必要な保護・誘導活動を行い、高齢者の安全通行を確保する。



夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止

歩行中・自転車乗用中の死亡事故が増加する夕暮れ時と、夜間の交通事故を防止する。

運転者

- 夕暮れ時には自動車の前照灯を早めに点灯するほか、夜間の「ハイビーム実践運動」やスピードダウンの励行により、歩行者・自転車利用者との交通事故防止に努める。（交通死亡事故防止対策集中運動取組項目）
- 横断歩道における歩行者優先と子ども、高齢者、障がい者等に対する思いやりのある運転を心がける。

歩行者・自転車利用者

- 夕暮れ時や夜間に外出するときは、運転者から確認しやすいよう明るい服装や反射材用品を着用する。（交通死亡事故防止対策集中運動取組項目）
- 自転車安全利用五則を周知し、自転車の正しい通行方法を理解させて、安全利用を推進する。なお、大人もヘルメットの着用を励行する。



自転車安全利用五則 (平成19年7月 交通対策本部決定)

- ① 自転車は、車道が原則、歩道は例外
- ② 車道は左側を通行
- ③ 歩道は歩行者優先で、車道よりを徐行
- ④ 安全ルールを守る
 - ★ 飲酒運転・二人乗り・並進の禁止
 - ★ 夜間はライト点灯
 - ★ 交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
- ⑤ 子どもはヘルメットを着用

家庭・地域・職場

- 夕暮れ時は交通混雑や視認性の低下などの理由から交通事故が発生しやすいことを理解・認識させる交通安全教育等を推進する。
- 歩行者や自転車利用者に対し、反射材用品の活用と「自転車安全利用五則」の遵守を呼びかける。

重点
3

全ての座席のシートベルトと チャイルドシートの正しい着用の徹底



自動車乗用中における後部座席を含めた全ての座席でシートベルトとチャイルドシートの正しい使い方を徹底し、交通事故発生時の被害防止や被害軽減を図る。

運転者

- シートベルトの着用効果を理解し、後部座席を含めた全ての座席におけるシートベルトの着用義務を周知徹底する。(交通死亡事故防止対策集中運動取組項目)
- チャイルドシートの着用効果を理解し、乳幼児の体格に合ったチャイルドシート等の使用と正しい使用方法を周知徹底する。

家庭・地域・職場

- 高速乗合バス、貸切バスおよびタクシー等の事業者は、全ての座席におけるシートベルトの着用を徹底させるため広報啓発を強化する。

重点
4

雪寒期の交通事故防止

道路条件に応じた適正な運転操作に心がけ、スリップ事故など冬場特有の事故の防止を図る。

運転者

- 自動車やタイヤの性能を過信せず、凍結時や積雪時にはスリップする危険があることを十分理解してスロードライブを徹底するほか、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなどを避け、十分な車間距離を確保する。
- 視界が悪いときは、徐行して前方をよく見るとともに、早めのライト点灯を実施する。

家庭・地域・職場

- 凍結・積雪に備え、早めに冬用タイヤに交換するよう呼びかける。
- 天候と路面状況に応じた安全速度での運転を呼びかける。
- 凍結時、積雪時はスリップする危険があることを話し合い、安全速度の徹底や早めのライト点灯等に関する「声かけ」を行う。



飲酒運転の根絶

運転者を始め広く県民に対し、飲酒運転の悪質性・危険性、飲酒運転に起因する交通事故の悲惨さを訴えて規範意識の確立を図るとともに飲酒運転を根絶する。

運転者

- 飲酒運転の悪質性・危険性を理解し、飲酒後に急用が生じた場合であっても、酒気を帯びた状態で車両等(自転車を含む)を運転しない。

家庭・地域・職場

- 飲食店等における運転者への酒類提供の禁止や、飲酒した客へのタクシーや自動車運転代行等の利用の働きかけ、ハンドルキーパー運動を推進する。
- 飲酒運転の悪質性・危険性について、交通事故被害者等の声を反映した広報啓発活動を通じて意識改革を推進し、飲酒運転を許さない環境づくりに努める。
- 自動車を使用する事業所等では、点呼時にアルコール検知器等による検査を励行し、二日酔いによる飲酒運転の根絶を図る。

ハンドルキーパー運動

自動車で仲間と飲食店などに行く場合、お酒を飲まない人(ハンドルキーパー)を決め、その人が仲間を自宅まで送り届ける運動



ハンドル
キーパー

交通安全3S(Save Silver、Save Child、Slow Down) + 2アクションの励行

第10次福井県交通安全計画で策定された「交通安全3S」等を推進し、交通事故の抑止を図る。

Save Silver(高齢者の事故抑止)

- 深夜に危険な行動と思われる高齢歩行者を見かけたときは、110番へ積極的に通報する。

Save Child(子どもの事故抑止)

- 家庭、地域、職場において、子どもに対する交通安全指導や誘導を行うなど、子ども自身の安全行動を促す。

Slow Down(ゆとりある速度での運転)

- 家庭や職場において、高速走行の危険性等について話し合い、安全運転意識の高揚を図る。
- 幹線道路等において見せる街頭啓発活動を推進し、ゆとりある速度での運転を実践する「スロードライブ」意識の定着を図る。

交通事故が起きにくい環境づくり

- 交通安全実践事業所等の民間企業・団体が「従業員の安全教育」、「家族への呼びかけ」、「地域での交通啓発活動」などの交通安全活動を職場ぐるみで推進することにより、交通事故のない「安全で安心な福井」の実現を目指す。

クルマに頼り過ぎない社会づくり

- 通勤、通学等での過度なクルマの利用を見直し、公共交通機関への転換を図るため、カー・セーブ運動を促進する。

※交通死亡事故防止対策集中運動取組項目…例年10～12月に交通死亡事故が多発する傾向にあることから、交通死亡事故を防止するため、この期間に集中的に事故防止対策に取り組む項目